

連合福島2023春季生活闘争「ふくしま労働シンポジウム」開催 ～ 暮らしをまもり、未来をつくる～ ステージを変える転換点にする



主催者を代表して挨拶する

澤田精一 連合福島会長

から人命を守り社会・経済活動を守る取組みの両輪が重要な局面であります。本シンポジウムは、政労使でその重要性を再認識し、これまでの延長線上では無く政労使で社会・そして今次春闘の情報を共有し、社会全体で継続した賃上げに向けた機運づくり・世論喚起、そして福島全体の経済の維持成長に寄与して行きたい。福島の人への投資により福島の未来を作る強い決意で取り組む。」と挨拶した。

第一部は、清水茂日本銀行支店長が「日本経済と福島経済の現状と先行き」、田沼久志労働基準部長が「基準行政を中心とした、最近の福島労働局の行政運営について」と題しそれぞれ講演を頂いた。引き続き、第二部は、清水支店長、田沼部長両氏と、県経営者協会連合会の小野利広会長、澤田会長の4人がパネリストとなり、福島民報社の五十嵐稔論説委員長にコーディネーターを務めて頂き、政労使による県内事業者の実態把握と、産業や組織の課題の共有を行い、働きやすい職場づくりや、賃金引上げに向けた考え方、最低賃金の取り組みについて、意見を交わした。澤田会長からは、賃金を引き上げなければ本県経済の発展はないと考えており、連合としても賃金を上げやすい環境づくりを訴えていく」と強調した。小野会長は、「物価動向を重視しながら、賃上げの積極的な対応を各企業に呼びかけたい」と話した。田沼部長は「賃上げ特設ホームページなどを通して情報発信につとめる」と語った。清水支店長は「企業の環境はさまざまなので、持続可能な形で賃上げなどの判断をするのが大切ではないか」との考えをしめした。

丁寧な講演と労働シンポジウムのパネリストを務めて頂いた清水支店長、小野会長、田沼基準部長の三名と、コーディネーターを務めて頂いた、五十嵐論説委員長に紙面を借りて、御礼を申し上げます。

連合福島は、2月3日（金）13時30分「ラコパふくしま」（福島市）で、連合福島2023春闘「ふくしま労働シンポジウム」を構成組織・地区連合、また経済団体や行政・県議会議員130名の参加も得ながら開催した。

冒頭、澤田精一会長は、「本日は、2016年以來7年ぶりにパネルディスカッションを政労使で実施致す。本、労働シンポジウムの開催により2023春闘のスタートとなる。

4年目となる新型コロナウイルス感染症そして、ロシアによるウクライナ軍事侵攻から1年、これらに起因するエネルギーや原材料の高騰が続き、値上げのスピードが加速している状況下に、県民・市民が苦しんでいる。感染症



日本銀行 福島支店

支店長 清水 茂 様



福島労働局 労働基準部

基準部長 田沼 久志 様



会場の皆さん



パネラーの皆さん